

2023年度

科目名称	運動器障害理学療法学
授業コード	BG324
英語名称	
学期	2023年度通年（前・後）
単位	4.0
担当教員	村上 憲治 (医療科学部), 小山 優美子 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、理学療法士が対象とする中でも代表的な運動器障害に関して評価方法と理学療法プログラムに関して講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法治療の対象として比較的多い運動器障害に対する理学療法の考え方と介入に関して臨床経験のある教員が各評価項目の実践的内容を分担して講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに挙げられた、理学療法士として運動器障害に対する臨床場面において必要な知識と技術を習得できる。 以下を本科目の等到達目標とする。 1：運動器に関連した疾患、障害について、理解を深める。 2：疾患・障害に応じて、最適な評価を選択できるようになる。 3：リスク管理をとらない、適切な理学療法を施行できる知識・技術を身につける。
計画・内容	第 -1回：組織再生・修復－総論 担当：村上（理学療法士）・小山（理学療法士） 第 -2回：骨折と脱臼－総論（骨折・脱臼の病理） 担当：村上（理学療法士）・小山（理学療法士） 第 -3回：骨折と脱臼－各論（骨折・脱臼の各種病態と理学療法） 担当：村上（理学療法士）・小山（理学療法士） 第 -4回：高齢者の運動特性とロコモティブシンドローム・フレイルについて （ロコモティブシンドロームの定義と実際）担当：小山（理学療法士）・村上（理学療法士） 第 -5回：高齢者の運動特性とロコモティブシンドローム・フレイルについて （フレイルの定義と実際）担当：小山（理学療法士）・村上（理学療法士） 第 -6回：脊椎疾患の病態と理学療法の考え方（脊椎疾患の総論と病理） 担当：小山（理学療法士）・村上（理学療法士） 第 -7回：脊椎疾患の病態と理学療法の考え方（脊椎疾患の各種病態と理学療法） 担当：小山（理学療法士）・村上（理学療法士） 第 -8回：末梢神経損傷の病態と理学療法の考え方 担当：小山（理学療法士）・村上（理学療法士） 第 -9回：脊髄損傷の病態と理学療法の考え方 担当：小山（理学療法士）・村上（理学療法士） 第 -10回：肩関節疾患の病態と理学療法の考え方 担当：村上（理学療法士）・小山（理学療法士） 第 -11回：股関節疾患の病態（変形性股関節症）と理学療法の考え方

計画・内容	<p>(変形性股関節症の病理) 担当: 村上(理学療法士)・小山(理学療法士)</p> <p>第 -12回: 股関節疾患の病態(変形性股関節症)と理学療法の考え方 (変形性股関節症の病態と理学療法) 担当: 村上(理学療法士)・小山(理学療法士)</p> <p>第 -13回: 膝関節疾患の病態(変形性膝関節症)と理学療法の考え方 (変形性膝関節症の病理) 担当: 村上(理学療法士)・小山(理学療法士)</p> <p>第 -14回: 膝関節疾患の病態(変形性膝関節症)と理学療法の考え方 (変形性膝関節症の病態と理学療法) 担当: 村上(理学療法士)・小山(理学療法士)</p> <p>第 -15回: 関節リウマチの病態と理学療法の考え方 担当: 小山(理学療法士)・村上(理学療法士)</p> <p>第 -1回: 運動器障害理学療法の実際(座学) 担当: 青柳(理学療法士)・小山(理学療法士)・村上(理学療法士)</p> <p>第 -2回: 運動器障害理学療法の実際(実技) (頰椎障害に対する理学療法の実際) 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -3回: 運動器障害理学療法の実際(実技) (末梢神経障害に対する理学療法の実際) 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -4回: 運動器障害理学療法の実際(実技) (腰部障害に対する理学療法の実際) 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -5回: 運動器障害理学療法の実際(実技) (肩関節障害に対する理学療法の実際) 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -6回: 運動器障害理学療法の実際(実技) (股関節障害に対する理学療法の実際) 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -7回: 運動器障害理学療法の実際(実技) (膝関節障害に対する理学療法の実際) 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -8回: 運動器障害理学療法の実際(実技) (足関節障害に対する理学療法の実際) 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -9回: 運動器障害理学療法の実際(実技) (リウマチに対する理学療法の実際) 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -10回: 運動器障害理学療法の実際(実技) (ロコモ・フレイルに対する理学療法の実際) 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -11回: 実技理解度確認 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -12回: 実技理解度確認 担当: 村上(理学療法士)/小山(理学療法士)</p> <p>第 -13回: 運動器障害理学療法まとめ 担当: 小山(理学療法士)・村上(理学療法士)</p> <p>第 -14回: 運動器障害理学療法まとめ 担当: 村上(理学療法士)・小山(理学療法士)</p> <p>第 -15回: 理解度の確認 担当: 村上(理学療法士)・小山(理学療法士)</p>
授業の進め方	<p>【授業の進め方】 本科目は通年科目である。 前期()は座学を中心に運動器障害の病態について知識を定着させる 教科書中心に配付資料を参照しスライド等を活用して授業を進める 後期()は前半は症例を基に総合的に運動器障害を理解し、実践的な理学療法の考え方および</p>

2023年度

授業の進め方	流れを理解する。後半は実技を中心に実際の理学療法の実践を実施する 教員によるデモンストレーションおよび解説をおこないその内容を実践する
能動的な学びの実施	各担当教員ごとに座学および実技演習をおこなうため、積極的な授業態度が望まれる。
授業時間外の学修	【授業時間外の学習(合計60時間程度)】 予習：次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合には従う。 復習：不明点を明確にしておく。実技の練習を実施する。
教科書・参考書	【教科書】 * 運動器障害理学療法学テキスト改訂第3版（細田多穂、南江堂） * 臨床につながる解剖学イラストレイテッド（松村讓児著、羊土社） 【参考書】 * 運動器の運動療法 第1版（小柳磨喜編集、羊土社）
成績評価方法と基準	【成績評価方法と基準】 本科目は通年科目のため最終評価は後期終了後になる。 成績評価は前期終了後に前期理解度確認テスト（25%）を実施する。後期は理解度確認テスト（25%）を実施し、前期および後期授業内容すべてに関する定期試験（50%）を含め総合的に評価する。 * 前期理解度確認テストは前期定期試験内に実施する場合がある。
課題等に対するフィードバック	* 理解度確認を実施した場合、次の授業内で`解説・フィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	* 実技実習の授業時は動きやすい服装(ケーシー)を着用すること、ならびに身だしなみを整えること(頭髪：長さ/色・爪：長さ/色・装飾品着用不可等)。 * 後期授業後半の実技に関しては実施曜日の変更の予定（詳細は授業内で伝達）
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・ zoomによる授業に切り替える（課題学修と組み合わせる場合がある） online授業にて解説および演習をおこなう。 成績評価（非対面对応） ・ 前期理解度確認テスト25%、定期試験成績50%と授業ごとに実施する理解度確認成績25%とする（課題提出状況も含む場合がある）